

「次に使う人も、嬉しいね」

対象：年中・年長児 作成者：小城亜矢子 作成日：2018年6月13日

●保育のねらい

- ・共有物の使い方、ルールの大切さを学ぶ
- ・他者が心地よいと感じるようにふるまう



●保育の振り返り

5つの目標でも重視されている〈人権〉とはどのようなものだと子どもたちはとらえているのでしょうか。どうやって学んでいくのでしょうか。その1つのきっかけが、他者に対する配慮ではないかと思い、本園ではみんなで使うものの使い方やルールを自然と身につけていくような保育を目指しています。

たとえば、保育者が声をかけたり一緒に揃えたりするうちに、自分で脱ぐ時に振り返って直す姿が次第にみられるようになります。単にスリッパの枠をつくるだけでなく、なぜスリッパが整っているとよいのかを自分たちで考えてもらうような環境を用意しています。「きれいだね」、「ありがとう」と気持ちよく揃ったスリッパに友達が感謝してくれることで、その意味がわかってきます。**（協同性、道徳性）** 今では、保育者が声をかけなくても他のスリッパも揃えられるようになりました。

次は、片付ける、整えることの意味がわかってきたことを踏まえて、どうしたらもっとよい片付けや整理になるか違う環境を通じて考える保育を試してみようと思います。